

平成26年9月30日

観光戦略課

電話 0742-34-4739

平成25年奈良市観光入込客数について

1 観光客数の概要

平成25年中に奈良市を訪れた観光客は、13,795千人で前年の13,324千人に比べ、471千人(3.54%)の増となりました。

2 種別前年との比較

平成25年の観光客数は、外国人観光客数が62.92%と前回に引き続き大きく増加し、修学旅行生数も6.18%の増加となりました。しかし、一般観光客については、日帰客が2.69%の増となったのに対し、宿泊客が3.36%減となりました。結果、観光客総数では3.54%の増加となりました。

種別		H24年観光 入込客数(千人)	H25年観光 入込客数(千人)	増減 (千人)	増減率 (%)
一般	宿泊	1,281	1,238	▲43	▲3.36
	日帰	10,951	11,246	295	2.69
	計	12,232	12,484	252	2.06
修学旅行	宿泊	97	103	6	6.19
	日帰	728	773	45	6.18
	計	825	876	51	6.18
外国人	宿泊	56	75	19	33.93
	日帰	211	360	149	70.62
	計	267	435	168	62.92
合計	宿泊	1,434	1,416	▲18	▲1.26
	日帰	11,890	12,379	489	4.11
	計	13,324	13,795	471	3.54

3 主な増減要因

(1) 平成25年の概況

平成25年は、「3本の矢」によるアベノミクスにより円安・株高が実現し、内閣府「日本経済 2013-2014」によると、日本経済の景気は緩やかに回復しつつあると判断されています。

6月に「富士山－信仰の対象と芸術の源泉」が世界遺産、12月には「和食；日本人の伝統的な食文化」が無形文化遺産に指定され、9月には2020年のオリンピック・パラリンピックが東京において開催されることが決まり、日本中が沸き立ちました。

しかし、奈良市においては、長年にわたり地域に根付いて開業してきた宿泊施設や商業施設が閉館・閉店し、奈良市の観光や地域経済に少なからぬ影響を与えています。その一方で、この年は、伊勢神宮の式年遷宮や出雲大社の本殿遷座祭などがあったことにより、地方にも注目が集まってきており、平成27年・28年に春日大社の式年造替を迎える奈良市にとっては、一つの指標となる年でもあります。

(2) 奈良市への観光客数

平成24年に比した平成25年の観光客数は、総数では3.54%増加しました。

利用交通機関別に見ると、軌道（JR及び近鉄）が対前年比156,700人（1.70%）増、モーター（観光駐車場等）が対前年比314,700人（7.68%）増となっています。

(単位:人)

	軌道(A)			モーター(B)			合計(A+B)		
	H24	H25	増減率	H24	H25	増減率	H24	H25	増減率
1月	741,500	758,900	2.35%	257,500	257,100	-0.16%	999,000	1,016,000	1.70%
2月	635,600	645,900	1.62%	170,700	213,800	25.25%	806,300	859,700	6.62%
3月	811,500	845,900	4.24%	244,200	465,900	90.79%	1,055,700	1,311,800	24.26%
4月	818,300	831,000	1.55%	442,100	489,200	10.65%	1,260,400	1,320,200	4.74%
5月	848,100	884,700	4.32%	610,400	654,700	7.26%	1,458,500	1,539,400	5.55%
6月	742,600	766,400	3.20%	423,900	440,900	4.01%	1,166,500	1,207,300	3.50%
7月	694,200	678,600	-2.25%	205,900	197,600	-4.03%	900,100	876,200	-2.66%
8月	803,500	762,500	-5.10%	221,600	201,000	-9.30%	1,025,100	963,500	-6.01%
9月	691,200	715,000	3.44%	281,200	293,000	4.20%	972,400	1,008,000	3.66%
10月	798,800	776,900	-2.74%	481,700	469,600	-2.51%	1,280,500	1,246,500	-2.66%
11月	890,000	928,800	4.36%	512,300	467,100	-8.82%	1,402,300	1,395,900	-0.46%
12月	751,100	788,500	4.98%	245,800	262,100	6.63%	996,900	1,050,600	5.39%
計	9,226,400	9,383,100	1.70%	4,097,300	4,412,000	7.68%	13,323,700	13,795,100	3.54%

【参考：軌道よりJR奈良駅及び近鉄奈良駅部分を抽出して比較】 (単位：人)

	JR奈良駅			近鉄奈良駅		
	H24	H25	増減率	H24	H25	増減率
1月	185,900	203,400	9.41%	440,000	436,000	-0.91%
2月	160,800	171,600	6.72%	372,100	367,700	-1.18%
3月	213,600	223,700	4.73%	472,000	479,500	1.59%
4月	213,600	223,000	4.40%	477,000	478,000	0.21%
5月	213,200	238,700	11.96%	506,100	511,500	1.07%
6月	180,800	204,500	13.11%	441,500	438,300	-0.72%
7月	180,000	178,700	-0.72%	397,800	382,900	-3.75%
8月	205,200	203,900	-0.63%	478,000	437,100	-8.56%
9月	177,200	190,100	7.28%	404,800	407,500	0.67%
10月	209,000	207,700	-0.62%	470,000	445,200	-5.28%
11月	224,900	252,300	12.18%	546,100	540,800	-0.97%
12月	196,500	209,700	6.72%	434,200	449,500	3.52%
計	2,360,700	2,507,300	6.21%	5,439,600	5,374,000	-1.21%

※JR及び近鉄の入込客数は推計

奈良市の主なイベント・施設の参加者数・入館者数の推移 (単位：人)

イ ベ ン ト	イベント名	H23	H24	H25
		なら燈花会	927,000	862,000
	なら瑠璃会	368,000	368,000	371,000
	平城京天平祭	128,000	141,000	134,000
施 設	施設名	H23	H24	H25
	ならまち格子の家	85,251	83,545	77,734
	奈良町からくりおもちゃ館		25,697	49,217
	名勝大乘院庭園文化館	49,340	50,088	51,180

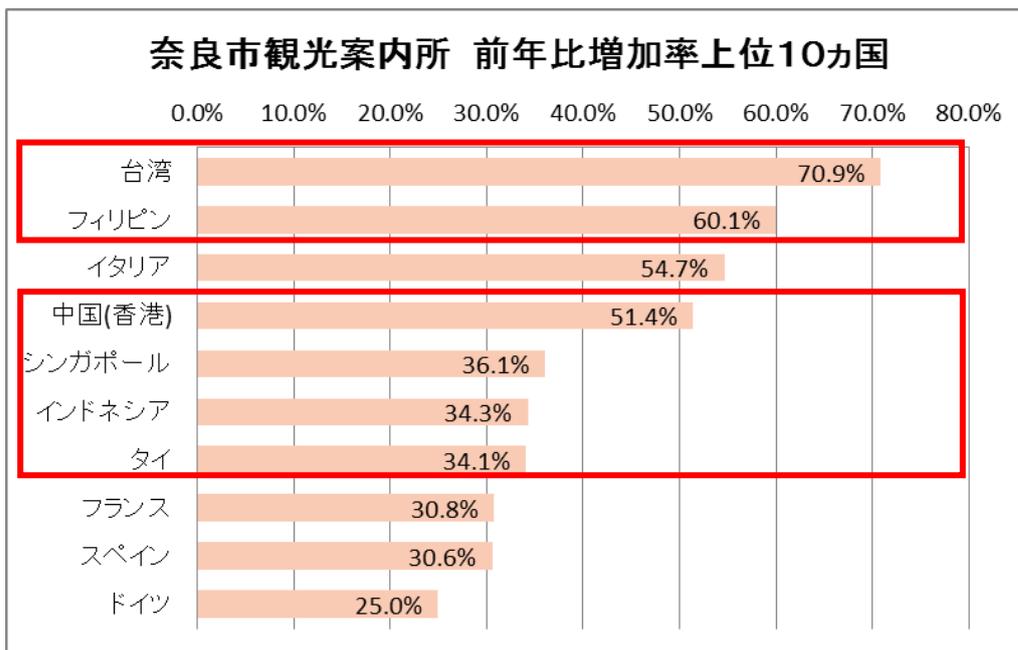
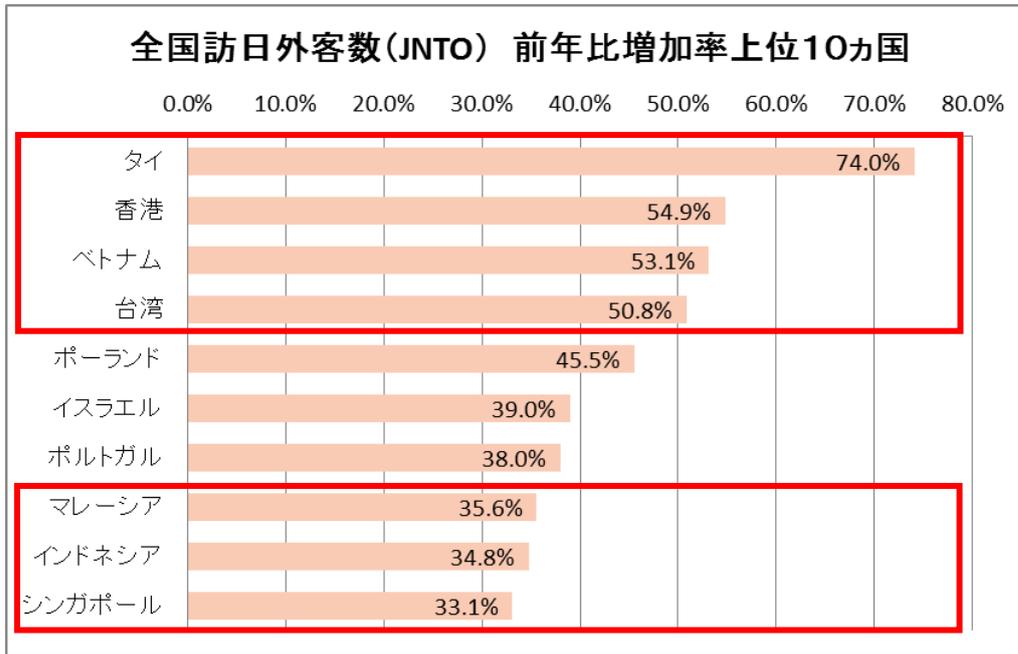
※「奈良町からくりおもちゃ館」はH24年4月から開館

しかし、宿泊客数については、平成25年中に複数の主要な宿泊施設が閉館したことなどもあり、宿泊客総数で対前年比18,000人(1.26%)の減少となっています。

(3) 外国人観光客数

外国人観光客については、JNTO(日本政府観光局)の発表によると、全国的に平成24年の835万人から平成25年は1,036万人と24.0%増加しており、円安による旅行費用の割安感の浸透や、平成25年7月より開始された東南アジア諸国の査証緩和の措置、LCCなどの新規就航等による航空座席供給量の増

加などが要因と考えられます。



JNTOが発表する全国の訪日外客数について、国籍別に詳細を見ると、東アジア・東南アジア諸国からの旅行者の増加が前年に引き続き目立っており、前年比増加率の上位10か国にタイ（1位）・香港（2位）・ベトナム（3位）・台湾（4位）・マレーシア（8位）・インドネシア（9位）・シンガポール（10位）の7か国がランクインしています。

奈良市の観光案内所の国籍別外国人観光客案内内訳を見ると、前年比増加率の上位10か国に台湾（1位）・フィリピン（2位）・中国（香港）（4位）・シンガポール（5位）・インドネシア（6位）・タイ（7位）の6か国がランクインしており、全国的な流れを受けて、奈良市でも東アジア・東南アジア諸国からの旅行者の増加が目立ちます。また、イタリア（54.7%増）・フランス（30.8%増）・スペイン（30.6%増）という欧州諸国の増加率が高いのも奈良市の特徴となっています。

特に台湾の動向は、中国等の海外旅行の動向に影響を与えていることから、平成24年度には台湾で、奈良市長自ら観光事業者とともに観光セミナーや商談会などのトップセールスを行い、その成果が着実に出てきていると考えられます。平成26年度は、台湾に関しては引き続きWEBサイトを利用したプロモーションを行っていくとともに、東南アジア諸国に対しても奈良市を目的地とした旅行商品を造成して観光見本市で販売するなどのプロモーションを行っていきます。

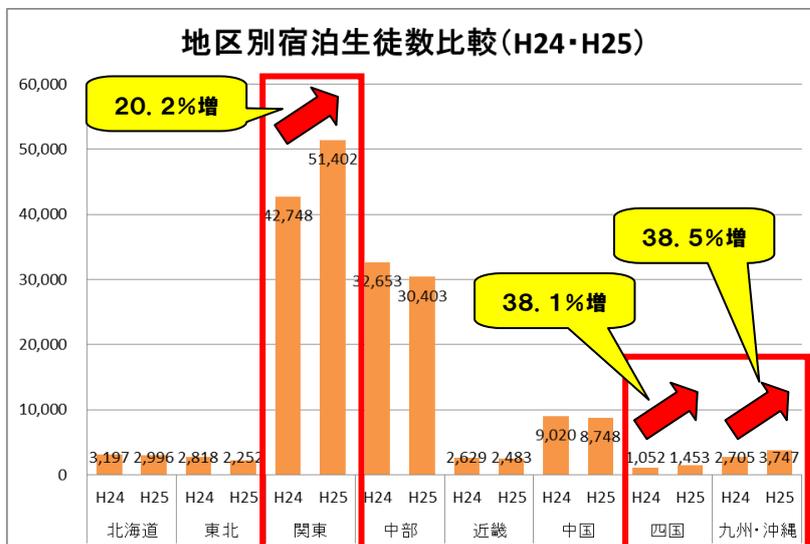
（4）修学旅行生数

修学旅行生については、宿泊と日帰りを併せた総数では対前年比6.18%の増加となり、平成20年から6年連続で増加傾向が続いています。

平成20～25年の修学旅行生数の推移

（単位：人）	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
宿泊	90,000	92,000	95,000	96,000	97,000	103,000
日帰り	684,000	690,000	713,000	720,000	728,000	773,000
合計	774,000	782,000	808,000	816,000	825,000	876,000

地方ブロック別で、平成24年と平成25年の宿泊生徒数を比較すると、関東（20.2%増）・四国（38.1%増）・九州・沖縄（38.5%増）が増加しているのが分かります。



次に、都道府県別で宿泊生徒数を見ると、人数ベースでは、首都圏・中京圏の中心である東京都・愛知県が安定的に1位・2位にランクインしています。また、平成24年から平成25年の増加率で見ると、青森県・岩手県・三重県・京都府・高知県・宮崎県などの増加率が非常に高くなっています。

東京都を含む関東地区における修学旅行生の増加については、平成18年から継続的に実施している「奈良市東京観光オフィス」による首都圏での教育旅行誘致活動などが一定の成果を収めていると考えられます。

総務省の人口推計によると、平成25年4月1日現在の15歳未満人口は、昭和57年から32年連続減少の過去最低の数字となっており、その点を考慮すると、奈良市の現在の教育旅行誘致活動は一定の成果を収めていると言えますが、まだ半分以上の地区で、宿泊生徒数が対前年比で減少しています。

そこで、従来の首都圏への誘致活動は一定の成果が出てきていると考えられるため、今後、その他の地区への誘致活動も検討していく必要があります。また、引き続き世界遺産など歴史文化遺産の宝庫である奈良市の魅力を最大限に活かしつつ、教育旅行を行う学校側の最大の関心事である安心・安全の要望に応えるため、安全対策を検討し、安全体制の強化にも取り組んでいきたいと考えています。

4 奈良市内の観光消費額

奈良県観光局観光産業課が毎年公表している、「奈良県観光客動態調査報告書」の平成25年版によると、平成25年の奈良県の1人あたり観光消費額は、宿泊客が26,577円、日帰り客が4,009円となっています。

(単位:円)

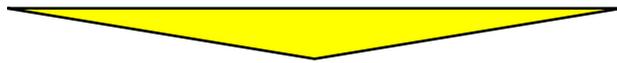
	奈良県		全国平均	
	宿泊客	日帰り客	宿泊客	日帰り客
平成25年	26,577	4,009	27,689	5,823
平成24年	22,549	3,703	27,061	5,496
対前年比	17.9%	8.3%	2.3%	5.9%

出典：奈良県観光客動態調査
報告書（平成25年）

平成26年7月31日とりまとめ時点

上記1人あたり観光消費額（単価）を奈良市の観光入込客数に乗じて、奈良市内の観光消費総額を推計すると、約873億円（宿泊客：約376億円／日帰り客：約496億円）となる。

H25	観光消費額単価 (奈良県)	観光入込客数	観光消費額
宿泊客	26,577円	1,416千人	37,633,032千円
日帰り客	4,009円	12,379千人	49,627,411千円
合計			87,260,443千円



観光消費額 873億円 (対前年比109億円増)

【参考①：平成24年の観光消費額（奈良市）】

平成24年の奈良市内観光消費額を上記と同様に推計すると、約764億円（宿泊客：約323億円／日帰り客：約440億円）となる。

H24	観光消費額単価 (奈良県)	観光入込客数	観光消費額
宿泊客	22,549円	1,434千人	32,335,266千円
日帰り客	3,703円	11,890千人	44,028,670千円
合計			76,363,936千円

【参考②：日本人・外国人消費額単価比較（全国）】

全国ベースで、「日本人（観光目的）」、「日本人（出張・業務目的）」、「訪日外国人」の三者の宿泊客消費額単価を見ると、「訪日外国人」の単価が非常に高いのが分かる。

H24	①日本人 (観光目的)	②日本人 (出張・業務目的)	③訪日外国人
宿泊客	52,938円	43,923円	111,983円

出典：①及び②の単価は、観光庁「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」(2012年版)
③の単価は、観光庁「訪日外国人の消費動向」(平成24年年次報告書)